

— 特 許 記 事 —

最近の製鐵鋼業界に於ける發明

特許出願公告 (昭和 30—3—22)

- 公告番号 発 明 の 名 称 (發明者) 出願人
 昭 30—1852 含ニッケル磁硫鉄鉱の優先浮選法 (永上克之) 同 人
 含ニッケル磁硫鉄鉱を粉末状態に於いて水分を含ましめ、空氣中に堆積して適宜時間放置してから之を再び粉碎磨鉱して選鉱する方法。
 昭 30—1888 耐火物製造方法 (若林 明) 日本鋼管 K.K.
 坯土又はプラスチック耐火物或いは耐火モルタル中に少量の高級脂肪酸アルカリ、アルキルアリル型界面活性剤或いは高級アルコール硫酸エステル of 1 種又は 2 種以上を添加練捏する方法。

特許出願公告 (昭和 30—3—26)

- 昭 30—2003 加熱用バーナー及び 2 次空氣の自動切換方法 (阿部重蔵外 2) 八幡製鉄 K.K.
 平炉等の加熱用バーナーの切換を行うに當つて炉内的一部分或いは蓄熱室等の温度を検出することにより各測定部分のいずれかが指定範囲の温度を上下に超えるとき又は各測定部分の 2 部分間に指定温度以上との温度差が生じたときに温度系制御回路が作動し、加熱用バーナーの切換及び 2 次空氣弁の切換機構を駆動するようにした方法。
 昭 30—2013 鉄鋼類に防護皮膜を形成する方法 (早川敦馬外 1) 同 人
 鉄鋼鑄鉄製品にアルミニウム微粉末を成層附着し其の上に硼砂及び硝酸曹達の混溶物を塗布し摂氏約 700—800 度附近に加熱する方法。

特許出願公告 (昭和 30—4—5)

- 昭 30—2258 平炉に於ける温度自動制御装置 (阿部重蔵外 3 名) 山武計器 K.K. 八幡製鉄 K.K.
 炉内天井温度を常時測定することによつて使用燃料である重油及び瓦斯使用量並びに霧化用蒸氣及び空氣使用量を自動的に比例調節するもの。
 昭 30—2259 平 炉 (ラッセル・ピヤアス・ヒュウエル) 同 人 (米)
 炉の限界側壁の 2, 3 部分にクロム鉄石又はマグネシヤ或いはその両者を含む耐火煉瓦から構成された炉頂に凹所を設け T 形頭に係合するハンガーによつて炉の支持構造で懸吊したもの。
 昭 30—2263 黒心可鍛鑄鉄予備加熱焼鈍法 (金田宣外 3 名) K.K. 日立製作所
 肉厚の差の甚しい形状の製品に鑄込んだ白鉄鑄物を焼鈍に先立つて 500—600°C で予熱して鑄物各部の黒鉛化所要時間を略々同一にした後黒鉛化保持を行う方法。
 昭 30—2272 金属の熱間押出プレス (ルネ、ハインツ外 1 名)
 コントアル、アンデュストリエル、デチラージ、エ・プロフィラージ、ド・メトー (仏)
 雌型保持具に特殊の改良を加え外匣の一端に雌型を保持すると共に該端を閉塞分離し得る壁を形成するようにしたもの。

特許出願公告 (昭和 30—4—11)

- 昭 30—2352 鼠 鑄 鉄 (オリパー、スモーリー) ミーハナイト、メタルコーポレーション
 含有黒鉛量の大部分が鑄造されると、その鉄中に於いて結節微細構造をとり、その鉄は鉄鑄中の遊離炭素上に結節促進力を及ぼすアルカリ土金属の少くも 1 種と更にリチウムを含有しリチウムとアルカリ土金属とは希望する微細構造を生ずる如き割合で含有されている鼠鑄鉄。
 昭 30—2353 鑄造管承口の鑄造鑄型 (伊藤寅吉外 1) 同 人
 金型の承口部分に粘結剤で固結して形成せしめた砂型と座板とを嵌合しこれを金型に適宜固止し得るようにした拡張自在の環状弾体片で保持せしめたもの。
 昭 30—2355 鉄又は鋼にアルミニウムを被着する方法 (岩崎一布外 1) 同 人
 塩化アルミニウムの膠状液を被処理物たる鉄又は鋼の表面に塗布し熔融アルミニウムに浸漬し、次いでその表面にアルミニウムを附着させながら取出す方法。
 昭 30—2379 高圧瓦斯発生炉 (ヘルベルト、グルーベル)
 ハイソリツヒ、コッパース、ゲゼルシヤフト、ミット、ベシュレンクテル、ハフツング
 冷却剤により流過せられたる垂直管から形成せられ、かつ瓦斯化剤が高圧下に於いて供給せらるべき瓦斯化鑿室を有するもの。